

A4611	401系-常磐線・初期型・アンテナ増備・改良品 8両セット	予価:26,600円(税別)
		JANコード: 130087 カートン内入数: 12

A4612	401系-常磐線・中期型・アンテナ増備・改良品 4両セット	予価:16,700円(税別)
		JANコード: 130094 カートン内入数: 12

商品形態	Nゲージ塗装済完成品(素材:ABS樹脂製 対象年齢:14歳以上 ブックケース入り)
-------------	---

実車	<p>国鉄では交流電化区間と直流電化区間を直通運転するために1960(昭和35)年に交直流電車を開発しました。常磐線向け50Hz対応車が401系、九州地区向け60Hz対応車が421系に区分され、国鉄では初めて20m級両開き3扉セミクロスシートが採用され、153系をベースにした裾絞りのある車体断面との組合せはのちの国鉄近郊型電車の標準形態になりました。</p> <p>1961(昭和36)年までに製造された401系の先頭車は運転台窓の大きな「低運」車で、1962(昭和37)年以降の製造分は踏切事故対策として高運転台構造にモデルチェンジしました。車体全体をローズピンク、前面をクリーム色に塗り分けた塗装は「赤電」と呼ばれて長らく交直流型電車の標準色として親しまれました。</p> <p>1962(昭和37)年に三河島駅付近で発生した事故を受けて常磐線の無線設備が整備され、1966(昭和41)年には常磐線を走行する全ての車両の屋根上にアンテナが設置されました。4両単位で仙台近郊のローカル輸送から上野口のラッシュ輸送まで縦横無尽の活躍をしましたが、初期に製造されたグループの殆どは国鉄分割民営化以前に引退しました。</p>
-----------	---

商品概要	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロエース近郊型電車シリーズの更なる充実 ・乗務員扉上に雨樋がないボディを新規作成 ・ヘッドライト、テールライト、前面行先表示器点灯。LED使用。ON-OFFスイッチ付 ・フライホイール付動力ユニット搭載
-------------	--

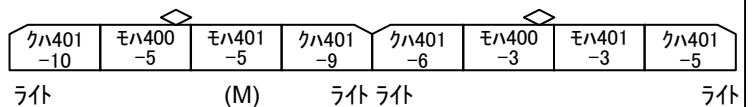
ローズピンクにクリームの警戒色。低窓車



- ・角型の検電アンテナを新規作成
- ・常磐無線アンテナ及び配管を別部品で再現
- ・フライホイール付動力ユニット搭載

JR東日本商品化許諾済

編成図 A4611



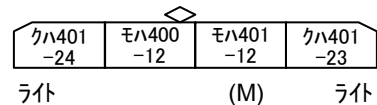
ローズピンクにクリームの警戒色。高運車



- ・角型の検電アンテナを新規作成
- ・常磐無線アンテナ及び配管を別部品で再現
- ・フライホイール付動力ユニット搭載

JR東日本商品化許諾済

編成図 A4612



オプション	幅広室内灯:G0001/G0002/G0003/G0004, マイクロカプラー密連・黒:F0001
付属品	行先シール